第１―Ａ分科会　研究課題「教育課程に関する課題」
研究主題「地域・保護者に開かれた教育課程への教頭の関わり方」

宮崎支会

１　主題設定の理由

新学習指導要領においては､｢社会に開かれた教育課程」の理念が提示され、教育課程の編成に際して、今まで以上に教科や領域の見直しを推進するとともに、学校関係者評価を筆頭に第三者の視点を通した取組が重要となる。

コミュニティ・スクールの運営も本格的に始動する今、教頭として教育課程に関して、どのように情報を提供し、説明責任に取り組むのかは、カリキュラムマネジメントにおける重要な業務の一つであり、保護者・地域との連携をさらに確固とするためにも必要なことである。

そこで、本班では、それぞれの学校での教育課程編成の取組をまとめ、教頭としてどう関わっていけばよいかを明らかにするために考え本主題を設定した。

２　研究のねらい

地域・保護者に開かれた教育課程編成に向けた各学校の取組と教頭の関わり方を考察し、教育活動の充実に資する。

３　研究の概要と成果

(1) 赤江中学校の取組

ア　積極的な情報提供や説明責任について

（ア）ホームページの積極的な更新

古い記事をすべて削除し、学校の概要から生徒会、部活動、各種行事の報告をタイムリーに更新している。その結果、４月からの訪問者数が７万件増加した。

（イ）マチコミメールの完全登録と情報提供

４月からマチコミメールの登録を呼びかけた。学級担任からも未登録の保護者に呼びかけを行い、５月の連休前には完全登録を実現した。学校行事や臨時休業、コロナ関係の連絡を全家庭一斉や学年ごとに連絡することができるようになった。

イ　カリキュラム・マネジメントを軸とした学校改善について

（ア）校時程の工夫

朝の全体職朝を行わず、８時から５分間、学年打ち合わせとしている。伝達事項は各自が日報に打ち込み、それを教務主任が毎日配布している。休憩時間を昼（３０分）と夕方（１５分）に分け、水曜日以外は帰りの会の前にオプションタイムの時間があり､各種委員会や学年会、全校一斉読書の時間等、各月に割り振って行っている。

（イ）学習過程の改善

授業においてＩＣＴ活用を図ることを校内研究の柱に置き、相互参観授業を実施している。ＩＣＴの授業での活用の仕方等、職員室で活発な議論を交わす姿が多く見られるようになった。

(2) 木花中学校の取組

ア　教育課程の編成・実施・評価について

（ア）積極的な情報提供や説明責任について

コロナ禍にあり、授業参観など様々な行事が未実施または規模を縮小して実施することとなった。学校運営や生徒の学びの様子が見えにくい状況になるため、学校ホームページによる情報発信を日常的に実施した。また、学校の教育活動の変更は、その都度、生徒に説明するとともに、保護者に対しても文書やマチコミメール等で丁寧な対応に努めた。

イ　教育目標の設定と具現化について

（ア）教育目標の設定や改善について

木花地区にある３つの小中学校で構成する「このはな校長会」において、９か年を見通した教育目標の設定や改善を協議した。また、学校や公民館、民生児童委員等から構成される「６者会議」において､「このはな校長会」で検討された教育目標の設定や改善等について共有化を図っていった。

ウ　社会に開かれた教育課程の実現について

（ア）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

全生徒に１台ずつ iPad が配置され､各教科等の授業において、積極的な活用が進んでいる。特に、Qubena は、生徒一人一人の学びに即した学習が可能となり、学ぶ意欲の向上とともに、学力向上が期待できる。

また、不登校生徒には、このアプリケーションソフトとＺＯＯＭを併用しながら、学力の保証を行っていく。

（イ）伝統や文化に関する教育の充実について

生徒の探究的な学習や学びの質を向上させるため、総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを行った。その中で１学年は、「伝統・文化」をテーマに掲げ、市生涯学習課所管事業である「ふるさと先生」を活用し、日本の伝統・文化について学習を行っている。

(3) 青島中の取組

ア　地域と連携した教育課程の編成

（ア）「D-Stadium」【中学生・全国オンラインアカデミー】の実施

D-Stadium とは、「中学生を対象とし、自分を表現する様々な活動を行ったり、全国の（面白人）へインタビューをして、Web 上で記事を書くことに挑戦する活動」であり、その記事を書く作業の過程においては、編集のプロフェッショナルの人たちが生徒にアドバイスをしている。セブン&アイ・ホールディングスが展開している事業であり、今回全国で初めて青島中学校１年生２４名を対象に、総合的な学習の時間を定期的に使用したオリジナルプログラムを実施している。この活動の実施については日頃から本校の教育活動に深く関与している青島地域センター地域振興部主任主事が、中学生による地域振興への参画を意図して、学校側に提示された。

教頭としては、担当者（情報教育担当）の業務増加を考慮し、年度当初の校内人事の進言を行った。

(4) 本郷中の取組

ア　総合的な学習の時間における地域人材の活用

持続可能な社会づくりへの意欲と関心をもち、自ら考え、行動できる生徒の育成を目指し、「SDGs」について関係機関や地域と連携を図りながら学習を進めることとした。

２年生では地域で「SDGs」の活動に取り組んでいる方を講師として招き、地域の活動を紹介してもらうとともに、地域の SDGs 活動に生徒も一緒に参加した。今回、地域の教育力を活用するにあたり、事前に総合担当、教頭、講師と打ち合わせを重ね、授業のねらいやビジョンを３者で共有し授業を実践した。

イ　職員研修における地域人材の活用

これからの地域連携の在り方について理解を深めるため、全職員を対象に、学校運営協議会制度や本郷まちづくり推進委員会の取組等について、研修会を開いた。地域の方を講師と招き「地域とともにある学校づくり」への意識改革を図った。

(5) 赤江東中学校の取組

学校運営協議会委員等、地域の中核となる人材との連携を深め、学校との協同関係を強化していくことで、「赤江東中学校ならでは」の活動を円滑に進めるとともに充実したものとなるよう取り組んでいる。

ア　学校運営協議会について

地域と学校が連携・協働し、地域全体で児童生徒の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指している。今年度は、第１回運営協議会で提案された放課後の学習会「寺子屋」を早速、取り組んでいる。寺子屋は、運営協議会委員や地域のボランティアで活動し、生徒の放課後の学習会をサポートしている。学習の質問に答えたり、生徒を見守ったりすることはもちろん、その他、生徒は様々な会話を通して生き方を学ぶ機会となっている。

イ　積極的な情報発信について

日々の教育活動を、学校ＨＰや学校だよりを活用して積極的に発信している。学校だよりは回覧板に入れ、地域全体に学校の様子を知っていただく絶好の機会としている。

(6) 成果

ア　ホームページの更新等により、地域・保護者への情報発信が活発になった。

イ　地域人材を授業等で積極的に登用することにより、学習に対する意欲が向上した。

４　今後の課題

● 社会に開かれた教育課程を編成、実施、評価するための教頭としての関わりをさらに明確にする必要がある。

● コロナ渦により、地域人材の活用や開かれた教育課程の在り方に工夫が必要となっている。